

長期漁海況予報（令和7年8月～12月の予測）について

令和7年7月29日～30日に令和7年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議が開催され、予報対象海域に関係する水産関係試験研究機関が参加・検討し、国立研究開発法人水産研究・教育機構がとりまとめ、8月1日に公表されましたのでお知らせします。予報内容の詳細については本文を参照ください。（予報本文 URL：https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2025/files/20250801_ukiuo-pac-1st.pdf）

1. 海況

(1) 黒潮（潮岬以東）

- ・大規模なC型基調で推移するものの、9～10月にかけて一時的にA型となる可能性がある。
- ・熊野灘～遠州灘沖では、西からの小蛇行の発達に伴い離岸傾向で推移するものの、一時的に接近することがある。
- ・蛇行北上部が一時的に伊豆諸島海域の西側に位置することがある。
- ・房総沖では、一時的に離岸することがある。

(2) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・断続的に黒潮による暖水が波及する。

(3) 沿岸水温

- ・房総海域～常磐南部海域は「平年並」～「高め」で推移する。

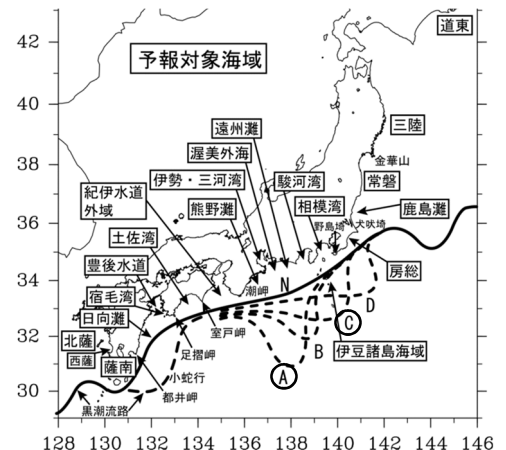


図. 予報対象海域および黒潮の流型

2. 漁況

(1) マサバ・ゴマサバ（犬吠埼沖～三陸海域、道東海域：まき網、定置網、底曳網）

- ①来遊量：マサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年並。4歳魚は前年並。5歳魚は前年を上回る。6歳魚は前年を下回る。マサバ全体としてはまき網では低調であった前年並～下回り、定置網では前年並、底曳網では前年を下回る。ゴマサバは混獲される程度。サバ類全体としては低調であった前年並～下回る。
- ②漁期・漁場：定置網、底曳網では期を通じて漁獲される。まき網漁場は、8月～10月は道東～三陸南部海域、11月～12月は三陸北部海域～犬吠埼沖に主に形成される。
- ③魚体〔尾叉長〕：マサバは24cm～37cm（2歳魚、3歳魚、体重130g～570g）主体に、20cm～30cm（1歳魚、70g～280g）および28cm以上（4歳以上、220g以上）も漁獲される。

(2) マイワシ（房総～三陸海域、道東海域：まき網、定置網）

- ①来遊量：房総～三陸海域では期前半は前年並～上回り、期後半は前年並～下回る。道東海域では前年並。
- ②漁期・漁場：まき網は8月～10月は道東海域が主漁場となり、房総～三陸海域は小規模な漁場形成となる。11月、12月は三陸～常磐海域において漁獲される。定置網は各地で期を通じて散発的に漁獲され、12月以降に本格化する。
- ③魚体〔被鱗体長〕：12cm～16cm前後の1歳魚（体重20～45g）、15cm～18cm前後の2歳魚（35g～65g）、16cm～20cm前後の3歳魚（45g～90g）主体に漁獲される。

(3) カタクチイワシ（房総～三陸海域、道東海域：まき網、定置網）

- ①来遊量：房総海域では漁獲主体となる0歳魚は予測が困難、期序盤に漁獲される1歳以上は前年を下回る。常磐海域では主たる漁獲対象とならない。三陸南部海域～仙台湾では前年並。三陸北部海域では前年並～下回る。道東海域ではマイワシの来遊量が著しく少ない場合に漁獲の主対象となる可能性がある。
- ②漁期・漁場：房総海域の2そうまき、三陸南部海域～仙台湾の定置網では期を通じて漁獲される。三陸北部海域の2そうまきでは9月以降。常磐～房総海域の1そうまきの主な対象にはならない。道東海域の1そうまきでは漁獲の対象となる可能性がある。
- ③魚体〔被鱗体長〕：6cm～9cm前後の0歳魚（2g～6g）、9cm～14cmの1歳以上（6g～25g）が漁獲される。（回遊性資源部）